

—2025年の振り返りを

—26年の展望は

—舗装のテストコースについて

—技術開発の方針は

かがた たけし
大成ロック 加賀田 健司 社長

「筋肉質な体制を目指して事業基盤を整えてきたが、収益を創出できる組織となりつつあり手応えを感じている。社員がやりがいを持つて働くように、人事制度と教育システムの見直しも進めた。福島県田村市の『大成建設グループ次世代技術実証センター』内で、舗装のテストコースの運用をスタートした」

「中期経営計画の最終年度であり、これまでの取り組みを成果として結実させるとともに、次のステージに向けた持続可能な成長の道筋を明確に示す年にしたいと考えている。『社員を大切にする』ことを経営の中心に据え、人的資本投資を継続し、働きがいと生産性を同時に高める」

「業績に関しては、定年延長な

い」「『未来の見える化』をキーワードとした技術の早期実証化を目指した施設であり、広く社会のためになればと考える。国内外を問わず、個社に限らずオープンに使える施設に育てていきたい。舗装業界だけではなく、さまざまな業種からの引き合いがある」

「特に、新材料をはじめ再生ア

ーー新規事業の考え方は新たに開発した技術を主軸に、グループのシナジーを事業展開できればと考える。無線給電舗装や高度な再生技術など、世の中により早く実装できる事業を大成建設グループとしても推進し、社会貢献につなげていきたい」



「どの人事制度改革により販管費が増加する見通しだが、建設事業の売上総利益の増加によりカバーしていく。製品事業は厳しい市場環境ではあるが、25年度の水準を維持したい。当期純利益は中期経営計画どおりを見込んでい

る」

スファルトの耐久性評価、サーキュラーエコノミー、環境に寄与する研究を進めている。新材料は、埼玉県幸手市に建設した『大成建設グループ次世代技術研究所』で

設立。設立した上で、テストコースで評価試験をする研究スタイルを定め、施工実験を行い、供用のめ

今年の一字は「守」。「人の命や道を守る」思いを込める。ブランディンググムービーでも「明日へつながる道をつくり、まもる」と発信する。

循環経済と技術軸に発展

